

まちづくり事業を募集します

平成25年度 応募団体募集

市では、市民ニーズや地域の実情に即して、自主的、自発的に地域活性化につながるまちづくり（公益的活動）を行う団体の取り組みに対して「まちづくり公募補助金制度」で支援しています。

今回、平成25年度の取り組みを次の



「NPO法人おくすり研究会」の富来小学校での「お薬の実験」(平成24年10月)

とおり募集します。対象事業や応募書類など、詳しくは市ホームページをご覧ください。

対象団体（主な要件）

○構成員が5人以上であり、その1/2以上が市民（在勤者を含む）であること

○国または地方公共団体から同一事業に係る補助を受ける団体でないこと

受付期間

3月1日（金）～15日（金）

受付場所

政策企画課 地域支援係

（国東市役所3階）

補助金額

補助対象経費の3/4以下の額で、上限は15万円です。

審査方法

審査委員会を設置し、提出された応募書類と団体のプレゼンテーション（企画案の説明）により審査します。

公開プレゼンテーション

期日 4月上旬を予定

場所 アストくにさき マルチホール

公開事業報告会を開催

平成24年度まちづくり公募補助金を活用した11団体が、活動の成果を発表します。

日時 3月24日（日）

午後1時～3時（予定）

場所 アストくにさき マルチホール

問い合わせ 政策企画課 地域支援係 ☎0978-72-5161

市長室から こんにちは

1月23日
No.21

国東市長 三河 明史

『晴耕雨読』

1月13日は消防団の出初式がありました。心配した雨も降らず、曇り空でしたが、まずまずのコンディションで立派な出初式ができました。午後は久々に予定が無かったので、久しぶりに畑の片付けをしていたら、雨がポツリポツリと落ち始めました。天気予報どおりです。最近の天気予報はよく当たりますね。片付けを急ぎつつ、乾いた土に沁みいる雨を見ながら、良い雨だなあと思いました。少し寒くなったし、久しぶりに読みかけの本でも読もうと家に入りました。晴れば畑を耕し、雨の日には家で読書をする。ふと昔のことが頭をよぎります。

私の父の生家は、小さい醤油工場を経営していました。その家から農家である三河家に婿養子に入ったのです。その時に父が持ってきた行李に古い本が沢山入っていました。父は、若い時は文学青年だったのでしょう。石川達三の『蒼茫』とか啄木の『一握の砂』、あるいは藤村の『若菜集』とかが詰まっていた。

私が、中学生の頃だったと思いますが、その行李の中の本を私に見せながら、「農家に養子に來れば、食べ物には不自由しないし、雨の日には本が読める。『晴耕雨読』の生活ができると思ったんだが、世の中思い通りにはいかないもんだなあ」というようなことを話していたことを思い出しました。

当時の農家は、朝暗いうちから夜暗くなるまで本当に良く働いていました。今のように機械化されていませんから、馬や牛があれば良い方で、とにかく体力勝負だったのです。父は、若い時には馬を引き材木の切り出しにも行き、賃金をもらうようなこともしていました。当時は皆さんそうだったんでしょうが、体があまり丈夫でなかった父は、大変苦労をしたようです。当時の農家は、「晴耕雨読」どころではなかったんですね。

祖父母や両親の苦勞に感謝しつつ、私は「ミニ晴耕雨読」をさせてもらいながら、しばし遠い昔のことに思いを馳せていました。